

進書 「生命革命」

目次

第一章 自分を支えている実在 7

直感と直観に訊く¹⁷

潜在意識の源泉「超意識」を目覚めさせる²⁶

全ては意思から始まる…生気溢れる生命活動³⁹

第二章 脳の思考処理メカニズム 47

脳の思考処理メカニズムと「生命の核」の成長⁴⁸

進化のための宇宙と共鳴した思考活動⁵³

思考はエネルギーの発電機⁵⁸

生命誕生と転生のメカニズム⁷⁰

人間関係は前世での関係の継続⁷⁸

生命誕生の神秘的なメカニズム⁸¹

肉体を必要としない進化段階⁸⁶

第三章 進化を目指す自己と向き合う 89

太陽系に大きな異変が起こっている⁹⁰

玉乗りの上手下手が今後の生存を握るカギ⁹³

人生は本当の自分を見つける「進化」する旅⁹⁵

信奉宇宙霊感応即現成…感じられる人¹⁰³

真実の愛は進化を促進する 108

第四章 宇宙をこよなく愛す 115

宇宙の共振共鳴理論 116

エネルギーの現象化理論 123

新しい健康へのアプローチ：病気の捉え方 134
病気は自己修正力で治すもの 139

第五章 生命の故郷：宇宙 143

宇宙と和多志達の体は一体 144

宇宙創世の捉え方 148

第一段階の宇宙創造の仕組み 151

第二段階の宇宙創生の仕組み 158

人間の存在する意義と目的 164

脳幹は心を知覚させる変換器 176

第六章 自分の本質を見つめ直す 207

性格と遺伝情報 208

第七章 命を導くメカニズム 215

意識と無意識の関係を知る 216

手相というコールドリーダ 222

オープンハート：ラポールⅡ意識では分からない深いレベルでの結びつき 226

関心を持つて観る事がラポール形成の第一歩 228

観たい反応を引き出すための質問例 237

WeタイプかMeタイプかを見分ける 239

「守ってあげるといふ」姿勢がでなければ、潜在意識の誘導は出来ない 249

絶妙なコミュニケーション・テクニク 252

ピンチをチャンスに換えるテクニク 255

ライフリーディング 265

総括：新たなる挑戦 267

第一章

自分を支えている実在

広大な宇宙に無数の銀河系が存在し、その一つの銀河に無数の太陽系が存在し、その一つの太陽系の第三惑星「地球」に存在する「人類」の各々が、全生命体の代表的存在である事に間違いはない。

地球上の知的生命体の中で、物質的存在を成立させている「見えざる実在」とコンタクトを取り、英知レベルを向上させている「グループ」が存在する事は、知っている方々も多いのではないかと思います。

人類史上偉業を成し遂げた「グループ」は、多かれ少なかれこの「見えざる実在」に恩恵を受けた人々です。特殊又は特別、異種、クレイジーとされてきた「進人類」だと和多志は認識しています。

通常の間人は、常識的な手段により必要な情報を手に入れる為に「五感」を通じて情報を入手しますが、この「進人類グループ」は、「channeling チャネリング」という方法を活用する事が多いのです。チャネリングとは、常識的な通信手段では情報をやりとり出来ないような相手（何か高次の存在・死者へ霊界人V・未来人・地球外知的生命体など）から、特別な能力によって情報を交信する事です。

チャネリングを行う媒介者をチャネラーと呼びます。シャーマニズムの一種でもあるようです。古代の多くの聖典と呼ばれる書物は、チャネリングによって書かれたともいわれています。

チャネリングは瞑想状態、いわゆる変性意識状態で行う事が多いのですが、それは限定条件ではなく、まれに通常の意識状態でも可能とされています。日本では特にバシヤールや神との対話が知られています。また、これを行う人物としてエドガー・ケイシーがよく知られています。

19世紀から20世紀にかけてイギリスを中心に西洋諸国に普及したスピリチュアリズムでは、シルバーバーチ・ホワイトイグールが知られています。チャネラーとして、モリス・バーバネル、グレース・クックなどが存在しました。

このような超常現象に関する研究は日本でも行われていますが、現代科学の立場からの視点では、疑似科学としてしか扱われていません。あくまでも日本の科学は目に見える物が中心の論理体系なのです。英文では Psi

Scienceと表記しますが、日本サイ科学会名誉会長であった電気通信大学名誉教授、関英男博士が提唱したものです。

事業内容は、「毎日の生活の多忙さやその他の理由の為に、社会的な評価を受ける間もなく、消滅の危機にさらされている多種多様な文化的・社会的な貴重資料があります。これらを後世に継承していく事が、今、求められております。

日本サイ科学会では、事業としてそれらを記録・保存（データベース化）する事を行っております。とりわけ重要・貴重事実の記録・保存（データベース化）に関し、奇跡類似の重要・貴重事項の所在や保存状況（紹介者）等の現状をデータベース化し、記録・保存する計画です。

1 目的・趣旨

(1) 人々は、健康で文化的な生活をエンジョイする権利をもっておりますが、高齢社会の到来に伴って、最近の成熟した社会では、残念な事に生活習慣病などの患者が次第に増えているのが現状であります。国内の場合を見ると、平成十六年度（二〇〇四年）の国の年間総予算約八十二兆円の約三六%強に当たる三十兆円もの国民総医療費の支出が予想されております。

(2) 科学の進歩とともに西洋医学も進歩しておりますが、それにも関わらず、患者は増え続けております。そこで反省として伝統医学や、西洋医学と伝統医学を統合した統合医学が次第、次第に注目され始めている様子であります。

(3) 伝統医学の基本概念は「患者の自然治癒力を増し免疫力を高める事にある」と判断されております。また、この事の根底には気（サイ）の存在の有無と、サイや気をどのように制御したら良いかという問題があると考えられます。

(4) 医学関係以外でサイや気を制御するものに念力(PK)や超感覚(ESP)等があると判断されております。
(5) 超常現象としての念力や超感覚等は宗教上の奇跡と思える様な不思議な現象であり、まれにしか生起してこないもので、歴史が示す様に、原因や状況は未解決のままに次第に忘れ去られるのが普通であり、貴重な資料も紛失されてしまうのが通常でありました。

(6) 高齢化社会に生きる人々の健康維持をどのようにすべきか、という問題を解決する為に、忘れられた現象と紛失された資料は、極めて重要な情報や解決の糸口を提供するものと考えられます。そこで、現在、僅かに残存する資料をデータベース化して、記録・保管する事にしたい。次に、誰がどのように記録・保管したら良いか、という問題について提案いたします。

(7) 日本サイ科学会は、超感覚や念力現象等を介して、サイや気の制御と機能の調査研究と啓蒙を主目的に30年近くの間活躍しておりますので、本会の新事業として、以上の情報・記事をデータベース化して保存する事にしたいと考えております。

このように目に見えない「現象」を研究していく事は、本来人類としてあるべき姿であると思います。誤解がないように和多志はこの学会とは何の関係もない事を付け加えておきます。

チャネリング、つまり「導き」という現象は、あくまでも主観であり、客観的な観察が困難な為、その内容を検証する以外に確認する方法はないのです。それが、確認不可能であれば「個の意識へのメッセージ」と解釈する以外にないのです。

宇宙の法則は普遍的である事を考えると、時代を進化へ向かわせる「普遍性チャネリングの具体性」が必要になってくるのです。和多志も講演中や研究の途上で、自分の知りたい内容が突然脳内に浮かび上がるという「直感的現象」がかなり頻繁に起こります。個人の事象から宇宙の構造真理に至るまで、様々なデータがダウンロー